



NEJIREBANE, No. 117 30. Sep. 2006

急 告

日本甲虫学会会長 佐々治 寛之 博士 逝去

本学会会長 佐々治 寛之 博士が、さる7月31日に急逝されましたことを、謹んでお知らせ申し上げます。

5月福井昆虫研究会の例会には元気に出席されましたので、運営委員一同予期せぬことに驚いています。今後の日本甲虫学会の運営に支障が出ないよう協力し、今後の発展に尽くすことが、亡くなられた先生のご遺志にお答えすることになるものと考えております。そのためにも、会員皆様のご協力を切にお願い申し上げます。



日本甲虫学会運営委員 佐藤 正孝 博士 逝去

本学会の運営委員であり、元日本鞘翅学会会長、日本昆虫分類学会副会長などを勤められた佐藤 正孝 博士がさる8月9日に亡くなられました。氏は本学会の機関誌、昆虫学評論の発行に多大の協力をされました。感謝の意を表しますと共に、ご冥福をお祈りします。

運営委員一同

京都府瑞穂町の灯火に來集したオサムシ科甲虫類 Carabid Beetles Collected by a Light Trap at Mizuho-cho, Kyoto Pref.

林 靖彦 Yasuhiko HAYASHI
兵庫県川西市水明台 3-1-73

この報告は、25年ほど前に資料を集めたあと、1980年代初めに一度纏めたが、未発表のままになっていた。その後調査地点の環境が全く変わってしまい、灯火に飛来するゴミムシ類は見る影もなく貧弱になってしまった。それ故、古いデータではあるが、環境資料の一つとして残しておくことに意義があるものと思ひ発表する。

京都府船井郡瑞穂町（現京丹波町）は、京都市の西北西約50kmに位置する山間の小さな町である。集落は谷あいや狭い平坦地に散在している。山は低く、中国地方の低山地域に景観が似ており、隣接する能勢地方と趣をやや異にする。町内の河川はせいぜい小川に毛の生えた程度だが、鍾乳洞（質志洞）がある。町内の山地は赤松を主体にした貧相な植生のところが多いが（当町内山林の40%という）、これは松茸の生産に力を入れている為もあると思う。照葉樹林は殆ど見られず、落葉性雑木林が主であり、山際には小湿地が点在している。甲虫相が貧弱と言うわけではないが、全体的な調査は十分でない。

筆者は1971年10月に町立瑞穂病院に勤務して以来、当直を利用してほぼ毎回灯火採集を行ってきた。その結果、1976年前後の数年間に80余種ほどのゴミムシ類を灯火で得ることが出来た。新種といったものはないが、2、3の珍しい種もあり、また当地からのまとまった甲虫類の記録は殆どないので、記録しておきたいと思う。

種の同定は概ね筆者自身で行ったが、一部のものは芝田太一氏に同定あるいは確認していただいた。また、ゴモクムシの一部などは伊藤昇氏に同定していただき、属名などについてもチェックを入れていただいた。両氏に感謝したい。

灯火設置場所と周囲の状況（図1）

青色蛍光灯を、診療棟（標高約170m）の西側の外壁に取り付けられた非常階段2踊り場（地上約5m）に設置した。ただし、採集は診療棟の外灯や室内の灯火の下でも行った。

灯火採集を始めたころは、この診療棟の西側は未舗装の駐車場で、南と西は雑草と桜の木の生えた北～北東向き斜面になっており、北側は5m程の道路を隔てて、数本の桜や雑木と雑草の生えた北向き斜面で川（幅せいぜい数メートル）になっていた。しかし1975年頃から病院周囲の道路整備、新設、舗装等により植生は全く破壊され裸地同然となった。その結果、飛来甲虫類は質量ともに著しく貧弱となり、採集意欲を著しくそがれた。1977年頃にやや回復の兆しが見られたが、1978年頃には再び飛来状況が悪くなりはじめた。1980年には駐車場と周りの斜面も潰されて保険センターが建てられ、視界は著しく狭められ、見通しが利かなくなった。その後は急速に飛来状況が悪くなって、1980年代半ばごろに病院の前の川（塩谷川）の上流にゴルフ場の造成工事が始まってからはホテルなどもほとんど見られなくなった。甲虫類の飛来状況は90年代になってからは最悪の状態で、回復の兆しは見られない。

灯火採集の方法と期間

灯火は20Wの青色蛍光灯1本を踊り場の壁に取り付けた。点灯期間は毎年3月中旬から11月下旬の、自分の当直の夜6時頃～12時頃までとした。しかし採集は定例的に当直の度に行ったわけではなく、勤務状況や天候、気分などで採集密度には大きな差が生じた。また採集標本の整理も十分とは言えないが、ゴミムシには殆ど目を通したつもりである。

飛来した種の採集データと若干の観察ノート

1. *Campalita chinense* KIRBY エゾカタビロオサムシ
(1975) 1 ex., 19. IX; (1983) 1 ex., 12. VIII.
2. *Clivina castanea* WESTWOOD ツヤヒメヒョウタンゴミムシ
(1974) 1 ex., 13. IX.
3. *Dyschirius (Dyschirius) ovicollis* PUTZEYS ダイミョウチビヒョウタンゴミムシ
(1974) 1 ex. 20. VII; 6 exs., 3. VIII; 3 exs., 4. VIII; 1 ex., 6. IX; 1 ex., 13. IX; (1975) 1 ex., 22. VII; (1978) 1 ex., 4. VII.
梅雨明けから秋口まで飛来が見られる。
4. *Perileptus (Perileptus) japonicus* BATES ホンチビゴミムシ
(1974) 1 ex., 4. VIII.
5. *Trechus (Ephaphius) ephippiatus* BATES ヒラタキイロチビゴミムシ
(1974) 2 exs., 3. VIII; 1 ex., 6. IX; 15 exs., 13. IX; 1 ex., 23. IX; 6 exs., 27. IX; (1975) 1 ex., 23. IX.
主に夏の終わり頃から初秋にかけて灯火に飛来するようである。
6. *Tachys (Eotachys) fasciatus* MOTSCHULSKY クロオビコムズギワゴミムシ
(1978) 1 ex., 17. VI; 1 ex., 11. VII.
7. *T. (Eotachys) sericans* BATES ウスオビコムズギワゴミムシ
(1974) 1 ex., 12. VII.; (1975) 1 ex., 19. VIII.
8. *T. (Sphaerotachys) fumicatus* MOTSCHULSKY クリイロコムズギワゴミムシ
(1974) 1 ex., 21. VI; 1 ex., 4. VII; 1 ex., 12. VII; 2 exs., 20. VI.; 5 exs., 3. VIII; 3 exs., 4. VIII.
6月下旬から飛来し、盛夏に多く飛来するようである。
9. *T. (Tachyura) exaratus* BATES ヒラタコムズギワゴミムシ
(1974) 1 ex., 3. VIII; 1 ex., 6. IX; (1978) 1 ex., 11. VII.
10. *T. (Tachyura) laetificus* BATES ヨツモンコムズギワゴミムシ
(1974) 1 ex., 14. VI; 4 exs., 21. VI; 6 exs., 20. VII; 24 exs., 3. VIII; 8 exs., 4. VIII; 2 exs. 9. VIII; 2 exs., 16. VIII; 6 exs., 13. IX.; (1975) 2 exs., 1. VII; 1 ex., 22. VII.; 1 ex., 26. VII; (1978) 1 ex. 17. VI; 1 ex., 18. VI.
6月中旬から9月中旬の長期にわたり多数飛来している普通種である。
11. *Bembidion (Notaphocampa) niloticum batesi* PUTZEYS アトモンズギワゴミムシ
(1974) 1 ex., 21. VI; 1 ex., 28. VI; 9 exs., 12. VII; 1 ex., 20. VII; 3 exs., 21. VII; 8 exs., 3. VIII; 4 exs., 4. VIII; 3 exs., 9. VIII; 1 ex., 16. VIII; 4 exs., 6. IX; 1 ex., 23. IX; (1975) 1 ex., 14. VI; 3 exs., 19. VIII; 1 ex., 19. IX.
前種とほぼ同様の飛来状況を示した。
12. *B. (Peryphus) morawitzi* CSIKI ヨツボシムズギワゴミムシ
(1974) 2 exs., 14. VI; 4 exs., 28. VI; (1975) 1 ex., 14. VI; 2 exs., 24. VI; 1 ex., 1. VII; (1978) 1 ex., 9. VI.
主に梅雨期にのみ飛来が見られた。
13. *B. (Peryphus) semilunium* NETOLITZKY ツマキムズギワゴミムシ
(1974) 1 ex., 13. IX; 7 exs., 23. IX; 9 exs., 27. IX.
9月中・下旬のごく短期間のみ飛来した。
14. *B. (Peryphus) cnemidotum* BATES ウスモンズギワゴミムシ
(1978) 2 exs., 9. VI; 2 exs., 18. VI; 1 ex., 4. VII.
梅雨期にのみ飛来が見られた。
15. *B. (Peryphus) chloreum* BATES アオムズギワゴミムシ
(1975) 1 ex. 23. IX.
16. *Perigona (Trechicus) nigriceps* DEJEAN クロズホナシゴミムシ
(1974) 1 ex., 2. VII; 2 exs., 3. VIII; 2 exs., 13. IX; 5 exs., 27. IX; 1 ex., 1. X; (1975) 1 ex., 19. IX; (1978) 1 ex., 11. VII.

主に梅雨明けから中秋にかけて飛来している。

17. *Trigonognatha coreana* (TSCHITSCHÉRINE) カクムネマルナガゴミムシ
(1975) 2 exs., 15. VIII; 2 exs., 22. VIII.
本種は診療棟の脇の外灯の下で得たが、以前福井県大野市勝原においてもやはり8月に外灯直下で、*T. cuprescens* MOTSCHULSKYとともに得たことがある。
18. *Trigonotoma lewisi* BATES ルイスナガゴミムシ
(1978) 1 ex., 9. IX.
19. *Pterostichus (Poecilus) planicollis* (MOTSCHULSKY) キンナガゴミムシ
(1980) 1 ex., 12. VII.
20. *P. (Lagarus) sulcitaris* MORAWITZ アシミゾナガゴミムシ
(1978) 2 exs., 25. VII.
21. *P. (Argutor) longinquus* BATES コホソナガゴミムシ
(1975) 1 ex., 24. VI.
22. *P. (Eurythoracana) haptoderoides japonensis* LUTSCHNIK トックリナガゴミムシ
(1978) 1 ex., 4. VII.
23. *Platynus (Pseudoplatynus) protensus* MORAWITZ コヒラタゴミムシ
(1974) 1 ex., 12. X; (1978) 1 ex., 24. IX; 1 ex., 24. X.
24. *P. (P.) magnus* BATES オオヒラタゴミムシ
(1974) 1 ex., 20. IX; 3 exs., 23. IX; 1 ex., 18. X.
上記2種ともに初秋から晩秋(時に11月中旬まで)にかけて飛来した。
25. *Platynus (Nipponachus) leucopus* BATES タンゴヒラタゴミムシ
(1974) 1 ex., 28. VI; 1 ex., 13. IX; 1 ex. 23. IX; (1975) 1 ex., 1. VII; (1978) 3 exs., 17. VI.
梅雨期及び9月中・下旬にかけて飛来がみられた。比較的普通に飛来した。
26. *P. (Agonum) chalconum* BATES アオグロヒラタゴミムシ
(1972) 1 ex., 22. VI; (1978) 1 ex., 17. VI.
27. *Colpodes (Metacolpodes) buchanani* HOPE オオアオモリヒラタゴミムシ
(1974) 1 ex., 7. VI; 2 exs., 14. VI; (1978) 2 exs., 16. V; 1 ex., 20. V.
採集例は少ないが、春から晩秋にかけて長期にわたりごく普通に飛来した。
28. *C. (Eucolpodes) japonicus* MOTSCHULSKY ハラアカモリヒラタゴミムシ
(1974) 1 ex., 6. IX; (1978) 1 ex., 9. IX.
初秋にのみ飛来が見られた。
29. *Euplynus batesi* HAROLD ベーツヒラタゴミムシ
(1975) 1 ex., 24. VI.
30. *Dolichus halensis* SCHALLER セアカヒラタゴミムシ
(1978) 2 exs., 4. VII; 3 exs., 9. IX.
梅雨ごろから初秋にかけて極めて普通に飛来した。
31. *Amara (Curtonotus) gigantea* MOTSCHULSKY オオマルガタゴミムシ
(1972) 1 ex., 13. IX; 1 ex., 27. IX; (1975) 2 exs., 19. IX; (1978) 1 ex., 9. IX.
32. *A. (C.) macronota ovalipennis* PUTZEYS ナガマルガタゴミムシ
(1975) 1 ex., 13. IX; 2 exs., 19. IX; 1 ex., 23. IX.
上記2種ともに秋口にのみ比較的普通に飛来した。
33. *Anisodactylus (Anisodactylus) signatus* (PANZER) ゴミムシ
(1974) 1 ex., 3. VIII; (1978) 1 ex., 4. VII; 1 ex., 22. VII; 4 exs., 25. VII.
34. *A. (A.) punctatipennis* MORAWITZ ホシボシゴミムシ
(1974) 2 exs., 20. VII; 1 ex., 21. VII; (1978) 1 ex. 4. VII; 1 ex., 25. VII.
上記2種ともに盛夏から秋口にかけて普通に飛来した。
35. *Harpals (Cephalomorphus) capito* MORAWITZ オオゴモクムシ
(1974) 1 ex., 3. VIII; (1975) 1 ex., 9. IX; (1978) 4 exs., 9. IX.

36. *H. (Pseudophonus) griseus* (PANZER) ウスケゴモクムシ
(1975) 1 ex., 3. VIII; (1978) 1 ex., 11. VII; 4 exs., 9. IX.
37. *H. (P.) jureceki* JEDLIČKA ヒメケゴモクムシ
(1974) 11 exs., 3. VIII; 2 exs., 13. IX; (1975) 1 ex., 19. IX; 2 exs., 23. IX; (1978) 1 ex., 9. IX.
38. *H. (P.) eous* TCHITSCHÉRINE オオズケゴモクムシ
(1974) 1 ex., 3. VIII; (1978) 1 ex., 25. VII; 1 ex., 9. IX.
39. *H. (P.) sinicus sinicus* HOPE ウスアカゴモクムシ
(1974) 9 exs., 3. VIII; 1 ex., 16. VIII; 1 ex., 23. IX; 1 ex., 27. IX; (1978) 12 exs., 9. IX.
40. *H. (P.) niigatanus* SCHAUBERGER クロゴモクムシ
(1978) 9. IX.
41. *H. (P.) tridens* MORAWITZ コゴモクムシ
(1978) 2 exs., 22. VII; 14 exs., 9. IX.
上記7種のゴモク類の殆どが7月下旬から8月上旬にかけて出現し、再び秋口に飛来した。また1978年9月9日は上記7種全てが飛来した特異日であった。
42. *Trichotichnus (Trichotichnus) vespertinus* HABU キュウシュウツヤゴモクムシ
(1974) 1 ex., 23. IX; 1 ex., 27. IX.
43. *T. (T.) congruus* (MOTSCHULSKY) ヒメツヤゴモクムシ
(1974) 1 ex., 6. IX.
44. *T. (T.) longitarsis* MORAWITZ クビアカツヤゴモクムシ
(1974) 1 ex., 6. IX.
上記3種ともに初秋にのみ飛来が見られた。
45. *T. (T.) lewisi* SCHAUBERGER オオクロツヤゴモクムシ
(1983) 1 ex., 12. VIII.
46. *Acupalpus (Palcuapus) inornatus* BATES チビキイログモクムシ
(1974) 2 exs., 7. VI; 4 exs., 21. VI; 1 ex., 28. VI; 2 exs., 12. VII; 1 ex., 21. VII; 3 exs., 3. VIII; 3 exs., 9. VIII; 4 exs., 16. VIII; 1 ex., 23. IX; (1978) 1 ex., 16. V; 1 ex., 18. VI.
5月中旬から10月中旬にわたり多数飛来した。
47. *Stenolophus (Stenolophus) propinquus* MORAWITZ ヒメセグロママゴモクムシ
(1975) 4 exs., 24. VI; (1978) 1 ex., 18. VI; 1 ex. VII.
48. *S. (S.) castaneipennis* BATES ツヤママゴモクムシ (= *S. iridicolor*)
(1974) 3 exs., 3. VIII; 3 exs., 9. VIII; (1975) 1 ex., 1. VII; (1978) 3 exs., 18. VI; 1 ex., 11. VII; 1 ex., 25. VII.
49. *S. (S.) agonoides* BATES ナガママゴモクムシ
(1974) 2 exs., 14. VI; 1 ex., 21. VI; 3 exs., 4. VII; 1 ex., 11. VII; 1 ex., 22. VII; 1 ex., 3. VIII; 1 ex. 16. VIII.
50. *S. (Egadroma) quinquepustulatus* (WIEDEMANN) イツホシママゴモクムシ
(1974) 1 ex., 28. VI; (1978) 1 ex., 22. VII.
51. *S. (E.) difficilis* (HOPE) ミドリママゴモクムシ
(1974) 8 exs., 4. VI; 3 exs., 21. VI; 2 exs., 24. VI; 1 ex., 28. VI; 6 exs., 12. VII; 5 exs., 20. VII; 2 exs., 21. VII; 5 exs., 3. VIII; 5 exs., 4. VIII; 3 exs., 9. VIII; 1 ex., 16. VIII; (1975) 2 exs., 24. VI; 1 ex., 19. VIII; (1978) 2 exs., 22. V.I
上記5種ともに6月中旬から8月中旬の2月半ぐらいの間にのみご、く普通に飛来した。
52. *Anoplogenus cyanescens* (HOPE) キベリゴモクムシ
(1973) 3 exs., 8. V; (1974) 2 exs., VI; 3 exs., 18. X; (1978) 1 ex., 16. V; 2 exs., 9. VI; 2 exs., 9. IX.
早春から晩秋まで長期にわたり多数飛来した。現在も、数は減ったが普通に飛来している。
53. *Diplocheila (Isorembus) zeelandica* (REDTENBACHER) オオスナハラゴミムシ
(1972) 1 ex., 22. VI.
54. *Macrochlaenius costiger* (CHAUDOIR) スジアオゴミムシ
(1980) 1 ex., 12. IX.

55. *Epomis nigricans* (WIEDEMANN) オオキベリアオゴミムシ
(1979) 1 ex., 18. VIII; (1983) 12. VII.
56. *Chlaenius (Chlaenostenus) circumdatus* BRULLÉ コキベリアオゴミムシ
(1974) 1 ex., 9. VIII; (1975) 1 ex., 15. VIII; (1978) 1 ex., 11. VII.
57. *C. (Pachydinodes) virgulifer* CHAUDOIR アトワアオゴミムシ
(1975) 1 ex., 19. IX; (1978) 1 ex., 18. VI.
58. *C. (Spilochlaenius) micans* (FABRICIUS) オオアトボシアオゴミムシ
(1974) 1 ex., 21. VI; 1 ex., 12. VII; 5 exs., 21. VII; 1 ex., 6. IX; (1975) 19. VIII; (1978) 1 ex., 9. IX.
59. *C. (Ilaenichus) naeviger* MORAWITZ アトボシアオゴミムシ
(1978) 1 ex., 4. VII.
60. *C. (Achlanius) variicornis* BATES コガシラアオゴミムシ
(1974) 1 ex., 21. VII; (1975) 2 exs., 24. VI; (1978) 1 ex., 30. V; 1 ex., 4. VII.
61. *C. (Chlaeniellus) inops* CHAUDOIR ヒメキベリアオゴミムシ
(1982) 1 ex., 30. V.
62. *Oodes (Oodes) vicarius* BATES オオトックリゴミムシ
(1975) 1 ex., 24. VI.
63. *Lachnocrepis (Eulachnocrepis) prolixa* (BATES) トックリゴミムシ
(1974) 4 exs., 3. VIII; (1975) 1 ex., 24. VI; (1978) 1 ex., 17. VI; 1 ex., 4. VII; 1 ex., 11. VII; 2 exs., 25. VII.
64. *L. (Lachnocrepis) japonica* BATES ヤマトトックリゴミムシ
(1974) 1 ex., 20. VII; 1 ex., 3. VIII; 1 ex., 9. VIII; (1978) 1 ex., 4. VII; 3 exs., 25. VII.
65. *Panagaeus japonicus* CHAUDOIR ヨツボシゴミムシ
(1978) 1 ex., 18. VI.
66. *Dischissus mirandus* BATES オオヨツボシゴミムシ
(1983) 1 ex., 23. VIII.
67. *D. japonicus* ANDREWES ニッポンヨツボシゴミムシ
(1974) 1 ex., 6. IX.
68. *Peronomerus nigrinus* BATES クロケブカゴミムシ
(1975) 1 ex., 9. IX.
69. *Archicolluris bimaculata nipponica* HABU フタモンクビナガゴミムシ
(1972) 3 exs., 22. VI; (1974) 2 exs., 22. VI; 2 exs., 28. VI; 1 ex., 13. IX.; (1975) 1 ex., 24. VI; 1 ex., 1. VII; (1978) 2 exs., 17. VI; 2 exs., 18. VI; 1 ex., 18. VII.
個体数は多くないが、普通に飛来した
70. *Pentagonica angulosa* BATES カドツブゴミムシ
(1974) 1 ex., 28. VI; (1975) 1 ex., 14. VI; (1978) 1 ex., 11. VII.
71. *Cymindis (Menas) daimio* BATES ダイミョウゴミムシ
(1975) 1 ex. 26. VII.
72. *Coptodela (Coptodelina) subapicalis* PUTZEYS ハギキノコゴミムシ
(1974) 1 ex., 4. VII.
73. *Orionellalewisii* (BATES) メダカアトキリゴミムシ
(1975) 1 ex., 24. VI; 1 ex., 22. VII.
74. *Lachnoderma asperum* BATES アリスアトキリゴミムシ
(1974) 1 ex., 21. VI.
従来珍しい種類と言われていたが、各地の河川周辺での採集例を聞くことが多くなった。
75. *Lebidia octoguttata* MORAWITZ ヤホシゴミムシ
(1978) 3 exs., 9. V.
76. *Parena (Parena) nigrolineata nipponensis* (CHAUDOIR) クロヘリアトキリゴミムシ
(1978) 1 ex., 4. VII.

77. *P. (P.) kurosai* HABU クロサヒラタアトキリゴミムシ
(1975) 1 ex., 15. IX; 3 exs., 23. IX.
秋口にのみ飛来した。
78. *Lebia (Poecilothais) retrofasciatus* MOTSCHULSKY ジュウジアトキリゴミムシ
(1974) 1 ex., 3. V; (1978) 1 ex., 28. III; 2 exs., 9. V; 1 ex., 16. V.
79. *L. (Nipponolebia) duplex* BATES ハネビロアトキリゴミムシ
(1978) 1 ex., 9. V.
80. *Lachnolebia cribricollis* MORAWITZ キクビアオアトキリゴミムシ
(1978) 1 ex., 17. VI; 1 ex., 4. VII.
81. *Pheropsophus jessoensis* MORAWITZ ミイデラゴミムシ
(1980) 1 ex., 3. V.
82. *Brachinus scotomedes* REDTENBACHER オオホソクビゴミムシ
(1974) 1 ex., 21. VI; (1975) 2 exs., 1. VII.
83. *B. incomptus* BATES ヒメホソクビゴミムシ
(1975) 1 ex., 14. VI; 2 exs., 3. VII; 2 exs., 26. VII.

考 察

灯火に飛来したゴミムシを全体をとおしてみると、8月下旬に大きな落ち込みがあって、その時期には個体数、種類数共に著減するように見うけられた。8月全体の飛来種数は27種で、これは全種数のほぼ1/3に当る。旬別にみると、8月上旬は21種、中旬は11種、しかし下旬は数種(記録は1種となっているが)にすぎなかった。6月が32種、7月と9月が37種であるのとくらべると、8月は中旬以降、飛来種が急減していることが判る。

グループ別に見ると、ミズギワゴミムシ類は7月から8月上旬に飛来のピークがあるが、ミズギワゴミムシ類は種によってピークが異なっている。ヒラタゴミムシ類も盛夏には非常に少なく、夏前半及び秋季によく飛来していた。ゴミムシ亜科のグループは属によって異なった飛来のピークがあるように思われた。*Stenolophus* 属は夏前半にピークがあるが、*Harpalus* 属は夏の終わりから秋口にかけてピークが有り、対照的である。アトキリゴミムシ類は早春から夏前にかけて殆ど飛来し、盛夏以降では2種のみであった。

“灯火に飛来した岩湧山の甲虫類”(びいとるず1(1):大阪甲虫同好会) のゴミムシ類との比較

岩湧山(大阪府)の調査地点は岩湧寺の境内で、周辺には田圃とか畑といった人工的な地形的環境は無く、全くの山間地で、近くには原生林も残っていた。一方、瑞穂町の採集地は標高が低く、山間にあるとはいえ、周辺は田圃、畑や人家などが近接しており、平地の里山に近い景観の中にある。ただ、岩湧山の調査は単年度で、しかも4月から9月までの約半年のものであったが極めて密度の高いものであったのに対し、瑞穂町のデータは約10年近くに及ぶが密度の低いものであるので単純には比較できないが、大凡の傾向は掴めたと考え、若干の比較検討を加えた。

1. 飛来种群の比較

岩湧山に比べ当地では、ミズギワゴミムシ類、ナガゴミムシ類、マルガタゴミムシ類、アオゴミムシ類、トックリゴミムシ類、ヨツボシゴミムシ類がかなり多く飛来した。これは調査地点が水系に非常に近いことと、その周辺に草地や畑地など太陽のよく当る比較的乾燥した環境があるためと思われる。一方、ヒラタゴミムシ類やアトキリゴミムシ類など、樹上性の種は岩湧山の方がずっと多いが、これは採集地点周囲の樹木量の差によると考えられる。当地では、どちらかと言えば地表性のゴミムシ類が多かった。また、全体的に見て平地性の要素が当地では強い。とりわけ、ナガゴミ、アオゴミ、ヨツボシゴミの類で著しく差が見られた。また、ミズギワゴミムシの類でも当地で

は平地性の種類が多く認められる。

2. 共通種の飛来時期の比較

・ダイミョウチビヒョウタンゴミムシ

岩湧山では6月下旬に一度だけ飛来しているが、当地では7月上旬から9月中旬にかけて飛来している。

・ホソチビゴミムシ

岩湧山では6月下旬に一度飛来したのみだが、当地では8月上旬に飛来した。

・ヨツモンコミズギワゴミムシ

岩湧山において7月下旬、8月中旬に飛来したが、当地においては6月中旬から9月中旬までとやや長期に飛来した。

・ヨツボシミズギワゴミムシ

岩湧山では6月下旬のみであったが、当地では6月上旬から7月上旬まで飛来した。

・クロズホナシゴミムシ

岩湧山においては6月下旬と7月中旬に飛来したが、当地では7月中旬から10月中旬の長期にわたって飛来した。しかし8月下旬には見られなかった。

・コヒラタゴミムシ

岩湧山では6月中・下旬に見られたが、当地では9月下旬から10月下旬にかけて飛来した。

・オオヒラタゴミムシ

岩湧山では5月と9月上旬に飛来したが、当地では9月中旬から時に11月中旬にまで飛来した。

・アオグロヒラタゴミムシ

岩湧山では5月上旬、6月中・下旬に飛来し、当地においても同時期に飛来している。

・オオアオモリヒラタゴミムシ

当地においては岩湧山同様、春から秋にかけて普通に飛来しているが、個体数は岩湧山ほど多くない。

・ベーツヒラタゴミムシ

当地では極めて少ないものようである。

・セアカヒラタゴミムシ

当地ではごく普通であったが、岩湧山では8月下旬に1頭飛来したのみであった。

・ウスケゴモクムシ、ヒメケゴモクムシ

岩湧山においては8月下旬以降に飛来が見られたが、当地では7月中旬から8月上旬にも飛来が見られた。

・オオズケゴモクムシ、コゴモクムシ

岩湧山では7月下旬にも飛来したが、当地では主として初秋に飛来していた。

・ヒメツヤゴモクムシ

岩湧山では7月下旬にも飛来したが、両地ともに主として初秋に飛来した。

・キュウシュウツヤゴモクムシ

両地ともに初秋に飛来した。

・クビアカツヤゴモクムシ

両地ともに初秋に若干飛来した。

・キイロチビゴモクムシ

岩湧山においてもかなり多数が5月下旬から8月上旬にかけて飛来した。当地においても極めて普通に5月中旬から10月中旬にかけて飛来した。ただし8月下旬には一時的に殆ど飛来しなくなった。

- ・イツホシマメゴモクムシ

岩湧山では6月中下旬に飛来したが、当地では6月下旬と7月下旬にごく少数飛来した。

- ・ミドリマメゴモクムシ

当地では6月中旬から8月中旬まで多数飛来したが、岩湧山では6月下旬にごく少数飛来したのみであった。

- ・キベリゴモクムシ

岩湧山では6月下旬にごく少数飛来したのみであったが、当地では4月末ごろから10月中旬くらいまで極めて普通に飛来した。

- ・アトワアオゴミムシ

岩湧山では7月中旬から8月上旬にかけて飛来したが、当地では6月中旬と9月上旬の2期に飛来した。

- ・フタモンクビナガゴミムシ

岩湧山では6月下旬に1頭飛来したのみであったが、当地では6月中旬から9月中旬まで比較的普通に飛来した。

- ・カドツブゴミムシ

当地では6月中旬から7月中旬に飛来したが、岩湧山では6月中旬から9月上旬まで少しずつではあるが切れ目なく飛来した。

- ・ダイミョウアトキリゴミムシ

両地共に7月のほぼ同じころに飛来した。

- ・ハギキノコゴミムシ

両地共に1頭ずつ飛来したが、岩湧山では9月上旬に、当地では7月上旬に飛来した。

- ・メダカアトキリゴミムシ

両地共に6月と7月の下旬にのみ飛来した。

- ・ヤホシゴミムシ

岩湧山では4月、5月の下旬に、当地では5月上旬に飛来した。

- ・ハネビロアトキリゴミムシ

岩湧山においては4月下旬から7月中旬にかけて散発的に飛来したが、当地では5月上旬にのみ飛来した。

- ・ジュウジアトキリゴミムシ

岩湧山においては4月下旬にのみ飛来し、当地では3月下旬から5月中旬にかけ飛来した。最も早い時期に飛来したゴミムシである。

- ・オオホソクビゴミムシ

岩湧山では7月中旬に、当地では6月下旬と7月中旬に飛来した。

ま と め

岩湧山においては比較的長期にわたり多数飛来した種は4種（全体の6.6%）だが、当地では15種（19.2%）に達している。共通種の比較でも当地の方が長い期間飛来する傾向があった。また飛来時期の著しく異なる種もあり、これは山地と平地における活動期の差と考えられる。主に夜間気温の変化に起因すると思われる。

また、両地共に8月下旬には飛来種類、個体数の著しい落ち込みが見られることから、地域差ではなくゴミムシ類の夜間活動性が（多分日中も）8月下旬頃には、共通して、著しく低下するものと考えられる。原因は明らかでないが、一応生理的なもの（休眠とか日長の変化＝短日化など）と考えられる。

ゴミムシ類の走光性について

ゴミムシ類は、全体的に成虫が周年野外で観察される。しかし灯火に飛来する状況を見ると、活動

期全体にわたって灯火に飛来する種があるようには見えない。むしろ、そのある一時期にのみ集中して灯火に飛来するようである。これは、飛来するその種が生理的にある特定の時期にのみ特に著しい走光性を示すためではないかと、考えられる。また、灯火トラップ周辺に常時棲息している場合と常に少しずつ移動していて、灯火トラップの付近に移動してきた場合が考えられるが区別できない。

参 考 文 献

木村 裕, 他, 1969. 灯火に飛来した岩湧山の甲虫類について. ぴいとるず, 1 (1): 2-24

隠岐新記録のハネカクシ

New Records of Staphylinidae from Oki Isl.

林 靖彦 Yasuhiko Hayashi

〒666-0116 川西市水明台 3-1-73

隠岐のハネカクシ類の記録は島田孝氏によって 90 種が報告された (2006)。島嶼のハネカクシ科リストとしてはもっとも多くの種が記録されたものと思われる。筆者は、島田氏が在島中の 2004 年 5 月の連休中に安藤清志氏と渡島し、わずか 2 日間だけの採集であったが、若干の同島未記録のハネカクシを得たので報告する。これで、同島の既知ハネカクシは 100 種になった。

なお、一部のハネカクシは島田氏からお土産にいただいた標本中に入っていたが、彼のリストに洩れているものがあったので、記録した。

1. *Piastoneus lewisi* SHARP オオヒラタハネカクシ

1 ex., 隠岐の島町大満寺山, 17. V. 2003, T. SHIMADA leg.

2. *Thinodromus japonicus* (CAMERON) ヤマトニセユミセミゾハネカクシ

1 ex., 隠岐の島町大満寺山, 3. V. 2004, Y. HAYASHI leg.

・ *Stenus* sp. (near sawadaianus)

3 exs., 隠岐の島町大満寺山, 3. V. 2004, Y. HAYASHI leg.

腹節 4 - 6 節に側線または側背板を欠くが、前胸背板中央線に非常に弱い圧痕を明らかに認めるので、真の *indubius* group (sense NAOMI, 2006) かどうか、明確でない。

3. *Scopaeus virilis* SHARP チビクビボソハネカクシ

1 ex., 隠岐の島町大満寺山, 3. V. 2004, Y. HAYASHI leg.

4. *Domene crassicornis* (SHARP) オオマルズハネカクシ

1 ex., 隠岐の島町大満寺山, 3. V. 2004, Y. HAYASHI leg.

・ *Gabrius* sp. A (near subdepressus)

1 ex., 隠岐の島町大満寺山, 3. V. 2004, Y. HAYASHI leg.

・ *Gabrius* sp. B (near subdepressus)

1 ex., 隠岐の島町大満寺山, 3. V. 2004, Y. HAYASHI leg.

・ *Gabrius* sp. C (near subdepressus)

1 ex., 隠岐の島町大満寺山, 3. V. 2004, Y. HAYASHI leg.

A, B, C は同種かも分からない。

・ *Gabrius* sp. D (near sharpianus)

2 exs., 隠岐の島町大満寺山, 3. V. 2004, Y. HAYASHI leg.

5. *Philonthus kobensis* SHARP フタイロコガシラハネカクシ
1 ex., 隠岐の島町大満寺山, 6. V. 2003, T. SHIMADA leg.
・ *Philonthus* sp. (near *micanticollis*)
1 ex., 隠岐の島町大満寺山, 3. V. 2004, Y. HAYASHI leg.
6. *Delops longicornis* SHARP ヒゲナガミズギワハネカクシ
2 exs., 隠岐の島町大満寺山, 3. V. 2004, Y. HAYASHI leg.
7. *Lordithon lewisi* (CAMERON)
1 ex., 隠岐の島町南谷林道, 2-20. VI. 2003, T. SHIMADA leg.
8. *Tachinus nakanei* ULLRICH ヒゲブトマルクビハネカクシ
1 ex., 隠岐の島町大満寺山, 3. V. 2004, Y. HAYASHI leg.
9. *Tachinus kobensis* CAMERON
1 ex., 隠岐の島町大満寺山, 3. V. 2004, Y. HAYASHI leg.
10. *Sepedophilus germanus* (SHARP) ムクゲヒメキノコハネカクシ
2 exs., 隠岐の島町大満寺山, 3. V. 2004, Y. HAYASHI leg.
・ *Myrmecocephalus* sp. (near *japonicus*)
2 exs., 隠岐の島町大満寺山, 3. V. 2004, Y. HAYASHI leg.
・ *Ocalea* ? sp.
2 exs., 隠岐の島町大満寺山, 3. V. 2004, Y. HAYASHI leg.
11. *Aleochara curtula* GOEZI ナカアカヒゲブトハネカクシ
1 ex., 隠岐の島町大満寺山, 3. V. 2004, Y. HAYASHI leg.
・ *Aleochara* sp. (near *curtula*)
1 ex., 隠岐の島町大満寺山, 3. V. 2004, Y. HAYASHI leg.

なお、既知種はリストに含めなかった。末筆ながら、お世話になった島田孝氏にお礼申し上げる。

隠岐のチビシデムシ，ヒゲブトチビシデムシ Cholevinae and Coloninae from Oki IIs.

島田 孝* 林 靖彦** Takashi SHIMADA Yasuhiko HAYASHI

*〒 234-0034 厚木市船子 1737 東京農業大学農学部昆虫分類研究室

**〒 666-0116 川西市水明台 3-1-73

島嶼のチビシデムシ相のまとまった報告は少なく、奄美大島（林, 1969），屋久島（春沢, 2005）ぐらいかと思われる。筆者の一人、島田は隠岐自然館で仕事する傍ら、島内各所にベイトトラップをかけて採集を試みたところ下記の 11 種を得ることが出来たので報告する。全個体とも島田が隠岐・島後で採集したものである。

CHOLEVINAE チビシデムシ科

1. *Ptomaphagus kuntzeni* SOKOLOWSKI オニニセチビシデムシ
1 ex., 隠岐の島町乳房杉, 2. X. 2003
2. *Micronemadus pusillimus* KRAATZ クリイロチビシデムシ
1 ex., 隠岐の島町大満寺山, 20. V. 2003; 1 ex., 同, 2 VI. 2003; 6 exs., 隠岐の島町乳房杉, 2. X. 2003

3. *Prionochaeta harmandi* PORTVIN オオクロチビシデムシ
6 exs., 隠岐の島町大満寺山, 20. V. 2003; 2 exs., 同, 12. V. 2003; 3 exs., 同 (500 m), 2. VI. 2003; 1 ex., 同, 1-20. VIII. 2003; 5 exs., 同, 17. V. 2003; 5 exs., 同, 6. V. 2003; 1 ex., 同, 20. V-2. VI. 2003; 1 ex., 隠岐の島町蕪杉付近, 6. V. 2003; 1 ex., 同, 23. IV.-6. V. 2003
4. *Sciodrepoides tsukamotoi* NAKANE キョウトコチビシデムシ
9 exs., 隠岐の島町大満寺山 (500 m), 20. V. 2003; 12 exs., 同, 20. V.-2. VI. 2003; 4 exs., 同 (by feather), 2. VI. 2003; 9 exs., 同 (by feather), 6. V. 2003; 5 exs., 同, 17. V. 2003; 1 ex., 同, 25. XI. 2003; 1 ex., 同, 2-16. VI. 2003; 1 ex., 同, 12. V. 2003; 2 exs., 隠岐の島町乳房杉 (400 m), 2-21. X. 2003; 2 ex., 隠岐の島町南谷林道 (190 m), 2-20. VI. 2003; 1 ex., 隠岐の島町乳房杉, 2. X. 2003; 1 ex., 隠岐の島町乳房杉, 6. V. 2003
5. *Sciodrepoides fumatus* (SPENCE) カバイロコチビシデムシ
6 exs., 隠岐の島町大満寺山 (500 m), 20. V. 2003; 3 exs., 同, 6. V. 2003; 5 exs., 同, 12. V. 2003; 2 exs., 同, 17. V. 2003; 1 ex., 同, 2. VI. 2003; 1 ex., 同 (by feather), 2. VI. 2003; 1 ex., 同, 20. V-2. VI. 2003; 5 exs., 隠岐の島町蕪杉付近, 6. V. 2003; 1 ex., 隠岐の島町乳房杉, 18-26. X. 2003
6. *Mesocatops japonicus* (JEANNEL) ホソムネコチビシデムシ
9 exs., 隠岐の島町乳房杉, 2. X. 2003; 2 exs., 同, 18-26. IX. 2004; 1 ex., 同, 2-21. X. 2003; 1 ex., 西郷町杉付近, 23. IV-6.V. 2003; 2 exs., 同, 6. V. 2003; 1 ex., 隠岐の島町東谷, 6. V. 2003; 3 exs., 隠岐の島町南谷, 18. IX-2. X. 2003; 7 exs., 隠岐の島町大満寺山 (500 m), 20. V-2.V. 2003; 1 ex., 同, 6. V. 2003;
7. *Catops hilleri* KRAATZ ヒレルチビシデムシ
5 exs., 隠岐の島町東谷, 9. XI. 2003; 5 exs., 隠岐の島町大満寺山 (500 m, by feather), 6. V. 2003; 1 ex., 同 (500 m), 2-16. V. 2003; 1 ex., 隠岐の島町乳房杉 (400 m), 2. X. 2003; 1 ex., 同, 18-26. IX. 2003; 1 ex., 同, 2-21. X. 2003
8. *Catops tannbaensis* HAYASHI タンバチビシデムシ
1 ex., 隠岐の島町乳房杉, 2-21. X. 2003; 2 exs., 隠岐の島町大満寺山 (500 m), 25. XI. 2003; 1 ex., 同 (500 m), 20. V. 2003; 1 ex., 隠岐の島町東谷, 6. V. 2003; 1 ex., 2. X. 2003, 隠岐の島町大満寺山 (500 m)
9. *Catops angustitarsis lewisi* JEANNEL ルイスチビシデムシ
1 ex., 隠岐の島町大満寺山 (500 m), 20. V-2. VI. 2003
10. *Catops sparcepunctatus* JEANNEL ミヤマチビシデムシ
1 ex., 隠岐の島町大満寺山 (500 m), 6. V. 2003; 1 ex., 隠岐の島町乳房杉 (400 m), 2. X. 2003
11. *Catopodes fuscifrons* KRAATZ クシヒゲチビシデムシ
1 ex., 隠岐の島町南谷林道 (190 m), 2-20. VI. 2003; 1 ex., 隠岐の島町南谷18-23. IX. 2003; 6 exs., 隠岐の島町乳房杉, 2. X. 2003; 4 exs., 同, 18-26. IX. 2004

— 考 察 —

本採集記録から隠岐のチビシデ相の傾向の一端がうかがえるのではないかと思う。オオクロチビシデムシ、ミヤマチビシデムシなどは、本州では、かなり深い山地（高標高と言うことではない）で得られることが多く、海岸から近い地点での採集例は聞いていない。タンバチビシデムシ、キョウトコチビシデムシも自然環境の比較的良い内陸部で得られることが多いようなので、島嶼とは言え、隠岐は本州の深い低山地帯に似たチビシデ相を呈しているように思われ、興味深い。特筆すべきはキョウトコチビシデムシが多数採れていることである。近畿地域でもこれほどまとまって得られたデータは見たことがない。一般的にはカバイロコチビシデムシのほうが圧倒的に多く得られている。タンバチビシデムシの、離島からの記録は初めてと思われ、シバタチビシデムシ *Catops shibatai* HAYASHI の生息の可能性も高いものと推察される。

離島のチビシテムシの記録は非常に少ないが、筆者らの知る範囲で、複数種の記録あるものを見てみると、奄美大島7種、屋久島5種ぐらいかと思われる。何れにしても殆ど調査されていないためと思われるので、今後の調査活動を大いに期待したい。

COLONINAE ヒゲブトチビシテムシ科

1. *Colony itoi* HISAMATSU トゲヒゲブトチビシテムシ

12 exs., 隠岐の島町大満寺山 (500 m), 20. V.–2. VI. 2003; 1 ex., 大満寺山 (500 m), 2–16. VI. 2003

本邦から8種のヒゲブトチビシテムシが知られているが、保科英人氏の私信によれば、これに倍加する未知種が存在するというのである。隠岐産の個体は上記種によく一致するが、微妙に差のある個体群が各地で得られているので今後の検討が必要と思われる。島嶼からの記録は初めてと思われる。

ガムシ科 *Armostus* 属の分布の追加知見

Additional Notes on Distribution of Hydrophilid Genus *Armostus*

保科英人

〒910-8507 福井県福井市文京 3-9-1 福井大学教育地域科学部地域環境講座

佐藤正孝

〒458-0804 名古屋市緑区亀が洞3-1404 ディアクオーレ徳重 306

Armostus 属 (和名: オカツヤガムシ属) は、保科 (2005) で述べたように、D'ORCHYMONT (1942) が日本から初めて記録したが、1行程度で軽く触れただけにとどまったこともあり、その記録は日本人に知られることなく埋もれていた。最近、我々はオカツヤガムシ属に関する論文、HOSHINA & SATO (2006) を公表して、日本産種の再検討を行った。その結果、日本に分布するのは、東南アジアから八重山諸島まで分布する *A. crenulatus* (RÉGIMBART, 1903) アジアオカツヤガムシ、東南アジアから八重山諸島、沖縄本島の *A. schenklingi* (D'ORCHYMONT, 1914) ツマキオカツヤガムシ、奄美大島とトカラ列島のみ分布する *A. nigricans* HOSHINA et SATO, 2006 セグロオカツヤガムシ、本州、四国、九州の *A. ohyamatensis* HOSHINA et SATO, 2006 オオヤマトオカツヤガムシの4種となった。今回、第一著者の沖縄本島産のガムシ標本の中に、セグロオカツヤガムシを見いだすことができたので、本稿にて記録することにする。採集データは以下の通りである。

Armostus nigricans HOSHINA et SATO, 2006 セグロオカツヤガムシ

1 ♂, 沖縄本島与那覇岳, 7. III. 2003, 保科英人採集 (落ち葉ふるい)

なお、本稿の主旨からは少し離れるがその記録について補足しておきたい。D'ORCHYMONT (1942) は、アジアオカツヤガムシを九州から記録したが、著者らが調べたかぎり、その後本種は九州から記録されていない。アジアオカツヤガムシとオオヤマトオカツヤガムシは、極めてよく似ているが、両種間の形態差はいろいろある。中でも最も大きな違いは、前者が雌雄の比率が通常のほぼ1:1であるのに対して、後者が(おそらくは)単為生殖であると考えられることだ。HOSHINA & SATO (2006) でオオヤマトオカツヤガムシを記載する際のタイプシリーズは20数個体だが、全てメスであった。確率論から言えば、本種のオスはそもそも存在しないと考えるのが自然である。それゆえ、D'ORCHYMONT (1942) が九州から記録したアジアオカツヤガムシは、オオヤマト



セグロオカツヤガムシ

オカツヤガムシの同定間違いであると言うのが我々の推測である。なお、西南日本を中心に分布するオオヤマトオカツヤガムシの東限は神奈川県で、本州では太平洋側にしか分布しない。また、本種は、九州では比較的普通種だが、東に行くほど採集しにくくなる傾向がある。

なお、第一著者は、HOSHINA & SATO (2006) の原稿が雑誌にアクセプトされた後に、沖縄産セグロオカツヤガムシの標本を自分のコレクション内から見つけた。その時点で、英文論文の内容変更はできなかったもので、HOSHINA & SATO (2006) が印刷された後に、分布の追加記録を報告しようと考えていた。そこで、昨年末には、既にこの報文をほぼ完成させ、今は亡き佐藤正孝先生に、原稿をチェックしていただいていた。英文論文の別刷りが米国から第一著者に届いたのと、先生が亡くなられたのは、奇しくも同時であった。別刷りをお渡しできなかったのは、まことに残念でならない。この場を借りて、心よりお悔やみ申し上げたい。

参考文献

- D'ORCHYMONT, A. 1942. Revision du genre *Armistus* SHARP (Coleoptera Hydrophilidae Cercyonini). Bulletin du Muséum royal d' Histoire naturelle de Belgique, 18 (15): 1-10.
 保科英人, 2005. 陸生ガムシ概説. 昆虫と自然, 40 (9): 30-33.
 HOSHINA, H. & M. SATO, 2006. A taxonomic study of the genus *Armistus* (Coleoptera: Hydrophilidae) from Japan. The Coleopterists Bulletin, 60: 95-104.

トゲヒメヒラタホソカタムシの西表島での記録 The Record of *Colobicones sakaii* OKADA from Iriomote-Is.

生川 展行

513-0015 鈴鹿市木田町2399



トゲヒメヒラタホソカタムシ

Colobicones sakaii OKADA トゲヒメヒラタホソカタムシは、奄美大島と石垣島で得られた個体に基づき、2005年に新種として記載された種である。筆者は、西表島で採集された個体を検することができたので、報告しておく。

1 ex., 沖縄県西表島相奈, 17. V. 2005, 田中勇採集。

なお、石垣島の標本も所蔵しているので、合わせて報告しておく。

1 ex., 沖縄県石垣島パンナ岳, 28. III. 1974, 山地治採集。

貴重な標本を検査する機会を与えていただいた田中勇氏と山地治氏、並びに標本写真を撮影して頂いた稲垣政志氏に、心よりお礼申し上げます。

文献

- OKADA, K., 2005. Occurrence of the genus *Colobicones* GROUVELLE (Coleoptera, Zpphetidae, Colydiinae) in Japan, with descriptions of two new species. Elytra, Tokyo, 32(2): 425-431.

会 告

追 悼 企 画

佐々治寛之会長、佐藤正孝運営委員が相次いで亡くなりました。お二方とも本学会、会員の皆様には非常にゆかりの深い方々であり、日本の甲虫界に大きな足跡を残された方々です。会としても追悼事業を企画いたしました。両氏とも、本学会はもとより日本鞘翅学会、日本昆虫分類学会にも深く関わっておられましたので、これら3学会の幹事等が急遽話し合って調整した結果、以下のように、各学会ごとに追悼企画を行うことになりました。

日本甲虫学会：追悼記事(和文)をねじればね 118号 (佐々治寛之氏関連)

追悼論文(英文)を 昆虫学評論第 62 巻 1号 (佐々治寛之氏関連)

日本鞘翅学会：追悼記事(和文)を 甲虫ニュース 156号 (佐藤正孝氏関連)

追悼論文(英文)を ELYTRA 第 35 巻 1号 (佐藤正孝氏関連)

日本昆虫分類学会：追悼論文(英文)を Japanese Journal of Systematic Entomology 第13巻
1号(両氏関連で、甲虫以外の分類群のもの)

偲ぶ会：10月28日大阪市立自然史博物館 (担当：安藤清志氏)

追 悼 論 文 募 集

佐々治寛之、佐藤正孝両氏の追悼論文を分類群を問わず公募します。投稿された論文は内容(分類群、どちらに献名されるかなど)によって上記のように振り分けられます。本学会は佐々治寛之氏の分を担当します。本学会の会員であっても他の学会に所属しておられない方は当方へご投稿ください。適切に処理いたします。また、いずれの学会に所属しておられなくても追悼論文を投稿されたい方はご相談ください。本学会の追悼記事については、運営委員の水野弘造までお問い合わせください。日本鞘翅学会では佐藤正孝氏へのものについて公募していますので、鞘翅学会にお問い合わせください(担当：鈴木互氏)。

会 報

日本昆虫分類学会第9回大会と「佐藤正孝さんを偲ぶ会」のお知らせ

去る8月9日、日本昆虫分類学会副会長で、日本鞘翅学会の元会長も務められた佐藤正孝氏が急逝されました。葬儀の際はお身内だけの集まりでしたので、心ならずもお見送りでできず気にかけておられる方も多いことと拝察いたします。そこで、学会のみならず、日本の昆虫学に多大な足跡を残された氏の逝去を悼み、なるべく早い機会に故人を偲ぶ場を設けたいと考え、来る10月28日(土曜日)に大阪市立自然史博物館(大阪市東住吉区長居公園1-23)で開催される日本昆虫分類学会第9回大会の懇親会を「佐藤正孝さんをしのぶ会」にさせて頂くことといたしました。

この趣旨から、日本昆虫分類学会の会員に限らず、生前におつきあいのあった多くの方々にお集まりいただき、虫談に花を咲かせて、にぎやかに故人を偲びたいと思います。皆さまお誘い合わせの上ご参集いただければ幸いです。

当日は13:30-15:00に「近畿の昆虫相」と題して公開講演4題、15:15-16:30まで6題の一般講演を行った後、17:30-20:00の予定で大阪市立長居球技場レストランにおいて懇親会「佐藤正孝さんをしのぶ会」を予定しております。ご参加いただける方は10月18日までに日本昆虫分類学会第9回大会事務局 〒534-0023 大阪市都島区都島南通 1-17-1(株)大栄商会内安藤清志宛に FAX 06-6928-1822 か E-mail:tenebrio@entom.biz-web.jp でお申し込み下さい。会費は、大会参加費が1,000円(博物館入場料\270を含む)、佐藤正孝さんをしのぶ会は4,000円(学生は3,000円)といたします。なお、公開講演の内容は以下の通りです。

初宿成彦(大阪市自然史博)：古代湖＝琵琶湖の存在によって特徴づけられる滋賀県の昆虫相
木村史明(樫原市昆虫館)：奈良県川上村の昆虫相について
春澤圭太郎(大阪狭山市)：紀伊半島の甲虫相
宮武頼夫(関西大)：紀伊半島のレッドデータの昆虫——大切にすべき希少昆虫たち

ねじればね 117号 Nejirebane No. 117

2006年9月30日 30. Sep., 2006

発行者：日本甲虫学会 The Japan Coleopterological Society

発行所：日本甲虫学会 〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23 大阪市立自然史博物館・昆虫研究室気付
Entomological Laboratory, Osaka Museum of Natural History, Osaka, 546-0034, Japan
振替口座: 00990-8-39672 URL: <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/jcs.html>

Tel. 06-6697-6221 Fax. 06-6697-6225 E-mail: shiyake@mus-nh.city.osaka.jp

編集：水野弘造、林靖彦、谷角素彦、初宿成彦、保科英人、伊藤建夫

原稿送付先：水野弘造 〒611-0002 宇治市木幡熊小路 19-35 Tel & Fax. 0774-32-4929

E-mail: kzmizuno@oak.ocn.ne.jp (和文, E-mailでの投稿を歓迎します)

入会及び会費問合せ先：野村英世 〒590-0144 堺市赤坂台 1-18-5 Tel. 0722-98-4066 (年会費5,000円)

昆虫学評論原稿送付先(英文)：芦田 久 E-mail: ashida@lif.kyoto-u.ac.jp Tel: 075-753-4298

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院生命科学研究科分子応答機構学分野